

報みょうとく

題字 松井裕子

浄土真宗本願寺派妙徳寺
(安芸教区志和組)
発行責任 寺報編集委員会
東広島市八本松町飯田六〇二
電話〇八二・四二八・〇一四四



護持会 前年度活動報告と 次年度活動計画について

現在、感染症拡大防止に配慮して法座活動は少回数短時間開催としています。お参りの方も充分な対策の上互いに協力しながらご参加くださっています。どうしてもたくさんお参りいただける状況ではないため、護持会についてのご報告の場を設けることがなかなかできないままとなっております。先日、護持会役員で話し合った結果、前年度活動報告と収支報告、次年度活動計画と収支予算の資料を法座での帳場に備えおくこと、十一月に予定している報恩講においてこれらをまとめご説明し上げることになりました。

概要的な今後の課題としては、通信費をどのように抑えるか、それを郵送だけではなくメールやホームページなどを活用して通信費用を削減できないかと役員で話し合っています。縁ある方にもれなくお知らせをお届けするために、

のような方法があるか、今後も協議してまいります。

仏婦法座 4/25

仏教婦人会法座が開かれました。しっかりと感染症対策をとり、二年ぶりの仏婦法座となりました。赤ちゃんの初参りの初参式を待つてくださっていたご家族、またこの二年のうちに



寺院活動のための 新型コロナウイルス感染症拡大防止の方針

安芸教区志和組13カ寺

<趣旨>
現在、地域の様々な活動・行事が、また本山別院・各寺の法座や行事も自粛あるいは短縮や中止などの判断をとっております。(中略)
今後私たちの法座の機会を守り寺院活動を消極的なものにならないために志和組法中で協議、感染防止対策をとりながらより安全な法座を開催することを目的として、あらためて次の5点を志和組法中の方針として申し合わせることとしました。

- <志和組法中としての方針>**
- [1] 手指の消毒設備の設置、マスクの着用依頼、室内の換気、飲食提供に対する配慮等、適切な感染防止対策を講じること
 - [2] 3密(密閉・密集・密接)の状態にならないよう互いに配慮を心がけること
 - [3] 大声での発声、歌唱とならないように配慮し、又は近接した距離での会話等を控えるように呼び掛けること
 - [4] 参拝くださる方には事前の検温をお願いし、37.5℃以上ある場合は参拝を控えていただくようお願いすること
 - [5] 相手の痛みを知る仏教徒として、感染者・医療福祉関係者やその家族などを誹謗・中傷・差別になる言動を厳に慎むこと

くならになられた仏婦会員の追弔会をご遺族をお迎えしてお勤めしました。

お寺の活動ができるようごびを感じながら、慎重に開催してまいります。

写真は仏婦会員さんがお飾りしてくださった花まつりの花御堂です。朝摘み取ってくださったお花を持ち寄ってくださいました。

一語法話

『正信偈の十二光』⑦
阿彌陀仏はすべての人を救うためにどのような仏になられたのか？親鸞さまはその働きを『正信偈』で十二の光とお教えくださいます。それぞれどのような働きなのか、親鸞聖人の『和讃』を通して味わってみます。

⑦ 歎喜光

慈光はるかにこふらしめ
光のいたる所には
法喜を得とぞ述べたまふ
大安慰を帰命せよ
『浄土和讃』
人のかかわりの中で苦しい事は色々あります。特に、心をかけ大事に思い接してきた相手から攻撃されたり、疑われたり、批判されたり、

私のヘウレーカ

いろいろな場面で「わかったぞ」と感じられたことがおありと思います。このような皆さまのご経験を「ヘウレーカ(そうか!)」と題して掲載していきます。仏教や浄土真宗に関することだけでなく構いません。皆様方からの投稿をお待ちします。

和讃に育てられ

和讃とは歌です。歌は言葉を一息呑み込み、種々の思いを詰め込んで紡ぎ出されます。親鸞聖人の和讃も門信徒の心に届き響いて、我々を育て導いていく縁となるのです。美空ひばりの「川の流れるように」の詩にも、仏教にかかわる思いと言葉があふれていて、私たちの心に響くだけではなく支える力となつてくださる。歌からは理屈を超えたはたらきがあるの

でしよう。
夜中にふと目が覚め、親鸞聖人の「地獄は一定すみかぞかし」というお言葉を思い出して、冷や汗を感じることが最近よくありました。

でもそんなとき、続いて次の二句を思い出します。

五濁悪世の有情の
選択本願信すれば
不可称不可説不可思議の
功德は行者の身にみたり
『正像末和讃』
弥陀の名号となえつつ
信心まことにするひとは
憶念の心つねにして
仏恩報ずるおもひあり
『浄土和讃』

すぐ心配に駆られて居てもたつてもいらなくなつてしまふ私、なにも解決方法を持つことができません。不安な私だけれども、不思議な仏のはたらきは私の中を安心で満たそうとしてくださるお方。「空っぽな私だからこそ仏さまはこの身に満ちようとしてくださるのです。この仏の働きをいただいている身であることをお念仏申しつつ喜ばせていただきますように」と親鸞さまはおっしゃってください。

このようにして私も、和讃を通じて支えられているのです。(土屋隆生)

てきます。そんな私の心に語りかけて下さるのが「歎喜光」です。目の前で怒りを起こさせている相手はかつての自分の姿であり、その私のために心がズタズタに引き裂かれながらも見捨てず、私を支えてくださる方がおられたのであり、その方の温かい慈悲の心が時空を超えて私の心に届く、

それが「歎喜光」の働きののです。これが「慈光はるかにこふらしめ」ということ、この「はるか」とははるかかなたということですが、親になつて初めて知る親心と言われます。私たちは親に対して色々と迷惑をかけて大きくなりましたが、そんな迷惑をかけた事など全(次頁へ続く)

行事予定

八月五日(木) 午前九時、午後一時
(午後席では物故者追弔会を予定しています。)

盂蘭盆会 (うらぼんえ)

講師 志和東 光源寺
堀靖史師

九月八日(水) 午前九時、午後一時

秋彼岸会 (あきひがんえ)

講師 大和町椋梨 明円寺
内藤 良照師

十一月二十五日(木) 午前九時、午後一時

報恩講 (ほうおんこう)

(お斎その他の詳細は
次号寺報でお知らせいたします。)

(前頁からの続き)

然らずに、一人で大きくなったように思っています。だから、親が子どものためにどんなに苦労したとしても、子どもはその親の御恩など全く感じません。でも自分が親となり、子どもが自分に色々迷惑をかけてくる事を通して、自分を育ててくれた親の苦労が知られます。「あ、自分も親に対してこんなにも迷惑

をかけてきたんだなあ。それでも、うちの親はよく私を見捨てずに育ててくれたものだ。自分は気付いてはいなかったけれど、こんなにも親から大事にされてきたのだなあ」と思うと、今悩みの種である子どものことが違うように感じられ、「そうだ、私も親に迷惑をかけた分、今度は子どもに対して愛情を注いでいこう」。これが恩を知らされるとい

う事です。私たちは、今苦しんでいる事が目の前にいる相手に伝わらないと、何か報われないような思いになります。それは時空を超えて必ず報われる時が来るのです。阿彌陀仏に救われた人とは、思い通りにならない相手に対して怒りが起きたとしても、仏のお力によって因果の道理が知らされていきます。そして今自分が受けて

いる結果はかつて自分がやってきた種蒔きの結果であり、今日の私を苦しめていいる相手こそかつての自分のすがたであったと知らされるのです。それが知らされると、今まで吹き上がった怒りは消え、私を受け取った御恩をしみじみと喜ぶことができるようになり、それに報いるように努め励む心に変えられていく。今すぐ私のこの気持は相手に

伝わることはないけれども、時空を超えて必ずあの人も届く日が来る。これが歓喜光の働きです。苦労がそのまま御恩が知らされる縁となり、それがまた、自分を奮い立たせる原動力となるのです。このように、私たちの怒りや苦しみを喜びへと転じ変える力を備えているため、阿彌陀仏の事を「大安慰」と言われているのです。

(次号へ続く)



編集後記

少しづつ、できる活動を模索しています。感染症が拡大する前の頃を思うと、もう以前のような活動はできなくなるのだろうか、と思っ

「藝州賀茂郡飯田村 獨歩行」

竹本省三

総代の竹本さんの、郷土の歴史を中心としたコラムです。あらためて郷土の歴史を知り、先人に想いを馳せながら読ませていただきます。

其の七 日本書紀

去年は日本書紀が編纂されて一三〇〇年の節目の年だったが出版物はおろか、誰一人語る人もいなかった。

新型コロナウイルス蔓延、大統領選挙、選挙買収事件等が世間を賑わす佳しい世の中に堕ちていくようだ。国の黎明期を知らなければ、先人が塗炭の辛酸を舐め乍ら切り拓いた知見は雫の如く滴下する。

古典文学者が序文に有るかるといって元号名を提案した処、天皇に成代つて不遜の某政治家が「令和」を採用した。「令」の上に冠の

「雲」を載せれば「零」となる。今日まで数多の先人が、蓄え遺してくれた有形無形の貴い財産が雫の如きポタポタと落ちてゆく様を頭す。新型コロナウイルス蔓延は先人の警鐘ではないだろうか。学術会議のそうそうたるメンバーは推し量ったように政治家に慮ってか誰一人指摘する人はいなかった。学識と智は無縁のものであった。

令和は三年目を迎えているが、GDPは激減し、債務超過が顕著となっている。国は緊急事態宣言を発令し補償金を取り敢えずバラマキ目線を逸らすようにしている。財政改革とやら標榜していたが、その笠簾は何処哉。この負債を負うのは現役世代である。その世代は親達とは違う社会構造だと

もなかつたからである。「日本書紀」は第四十代・天武天皇が、天武十年(六八一)に詔して、一品舎人親王が編纂した。三十九年を要し、養老四年(七二〇)に完成、日本に伝存する最古の「正史」とされて

書」の編纂を命じた。古代史最大の対外戦争「白村江の戦い」では倭国は朝鮮半島に出陣し唐・新羅連合軍に壊滅された。五万の兵を送ったが、再び故郷の地を踏んだ者はいなかった。当時、朝鮮半島の最先端の技術・知識等を渴望していたので、溺れる倭兵は見捨てられた。白村江の湾は倭人の血でいつまでも紅色に染まったそうだ。百済人を優先して渡来させ国造りを担わせたのである。

私達の両親は戦後復興の儘ならぬ中、愚痴も溢さず黙々と働き続けていた。私達は高度経済成長期に青春を迎え、社会に出れば家庭を顧みることなく、身を賭し競争社会で鎗を削ってきた。気付いたら定年を迎えていたが、私達も寡黙に猛進してきた。親達が寡黙だったのは私達の成長を樂しみ、夢を抱いていたからだ。しかし進学費用は先祖伝来の田地畑を売

り払ったものだった。私達は両親の期待にこたえるべく只管に働いた。私達の寡黙は仕事で疲れ果て喋る余力

で、日本の学僧・山田史記が引き継いだ。内容は初代・神武天皇から第四十代・持統天皇までの天皇の事績である。壬申の乱(六七二)では、第三十八代・天智天皇の子・大友皇子が天智天皇の弟・大海人皇子との皇位継承争いに勝利して飛鳥浄御原宮で即位し、天武天皇となり「律令の制定」と「歴史

詳しくは『日出る国』から賀茂郡への設えに強記乱筆しましたので拙書をお読み下されれば幸いです。(次号へ続く)



妙徳寺ホームページ <http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/> ホームページ内で行事予定を随時更新しています

合同墓・墓地案内 有縁の皆さんでおまもりしている合同墓と一般墓地があります。たくさんのお方がご利用いただけます。

志和組テレホン法話「みのりの電話」 433-4989 (しじゅうさんざん、しくはっく) 7月 1日～ 浄蓮寺 沼田典生 7月 11日～ 善正寺 武田昭峰 7月 21日～ 志和奥屋 向井邦彦 8月 1日～ 天龍寺 天野英昭 8月 11日～ 報専坊 松島純以 8月 21日～ 西方寺 安國晴子 9月 1日～ 照栄寺 井口英隆 9月 11日～ 長松寺 笠岡潤一 9月 21日～ 八本松篠 岡本法治

「写経の会」開催予定日 7月 23日(金) 午後2時より 8月 27日(金) 午後2時より 9月 24日(金) 午後2時より 申し込みは 代表 西本さん(428-2466)、または妙徳寺へご連絡下さい。

「妙徳寺仏教壮年会例会」開催予定日 7月 10日(土) 午後7時から定例会 8月 21日(土) 午後7時より定例会 9月 11日(土) 午後6時より寺報編集会議 毎月第2土曜日午後7時開催を原則としています。

「生きていくための仏の教え 仏教基礎講座」 7月 10日(土) 午後2時より 8月 21日(土) 午後2時より 9月 12日(土) 午後2時より 申し込みは 代表 廣川さん(428-5935)、または妙徳寺へご連絡下さい。

「おみのりサロン」開催予定日 7月 14日(水) 午後2時より1時間半 (『大乘』講読会と座談会など) 「お茶の会」開催予定日 (参加者募集中、ご連絡ください) 現在休止中、再開については電話かホームページでご確認ください。